

## PDL05 ひので可視光望遠鏡による彩層Caジェットの見

中村 太平(京都大)、柴田一成(京都大)、松本琢磨(京都大)、大辻賢一(京都大)、永田慎一(京都大)、北井礼三郎(京都大)、ほか、ひのでチーム、飛騨天文台グループ

ひので (SolarB) 搭載の可視光望遠鏡 (SOT) による CaIIH ブロードバンドフィルターによる連続観測は人類がまだ見たことのない驚くべき太陽像を次々に我々に送り続けているが、連続画像の詳細な解析により、黒点近傍の彩層中で、これまで誰も見たことのない、微小なジェットが多数発生していることが発見された。

ジェットの幅は0.3秒以下(200km以下)、速度は5-20km/s程度、寿命は数分である。ジェットの足元には輝点(またはナノフレア)が存在し、ジェットと輝点の形は、ようこうSXTやひのでXRTで発見されたアネモネ型のX線ジェットの形とそっくりである。ジェットの速度は光球や彩層底部のアルフベン速度と同程度である。

これらの微小なCaジェットはアネモネ型ジェットの微小版と言え、微小双極磁場(または微小浮上磁場)と局所的に一樣な光球彩層磁場とのリコネクションにより形成された可能性が高い。